

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200495		
法人名	ラブネットサービス株式会社		
事業所名	グループホームとんがりぼうし		
所在地	倉敷市玉島柏島688-1		
自己評価作成日	令和 3年11月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=3390200495-006&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和3年12月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔で寄り添い、笑って暮らそう」をモットーに、「その人らしく笑顔で」生活できるよう日々のケアを行なっています。今年度は昨年に続き、新型コロナウイルス感染予防の為外出も殆どできず、家族の面会も制限せざるおえない状況だった。近隣住民の運営推進会議も中止していた。感染予防の為、換気・消毒・清掃などに追われた1年だった。協力医療機関・訪問歯科・訪問看護ステーション・薬局等と連携し、情報収集、対策を検討、スタッフ会議にてホームの状況、希望等社長に相談、物品の購入や対策を行った。心配する家族にも毎月情報を伝え、随時、臨時の手紙や新聞の発行を行った。スタッフ本人とその家族の健康チェック、出入りする全ての人の記録を行った。また、ホームでできる行事は感染防止を行いながら、できるだけ行った。特に季節の行事、誕生日会は会話も多く、笑顔も多くなりました。今年から管理栄養士との連携を開始、栄養についてスタッフが学ぶ機会を得ている。ホームの食事の評価も始まった。食事は元気の源、より美味しく体にいい食事が作れるように努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小高い丘の中腹にあるホームからは眼下に玉島の町並みが見え、いつも訪問すると自室に案内してくれ、ご自慢の窓からの眺望を嬉しそうに説明してくれる利用者もいる。女性8名、男性1名の利用者達リビングのテーブルで仲良く塗り絵をしたり、気の合う者同士でおしゃべりが弾んだり、コロナ禍で外出がままならない中でも、笑顔を絶やさずホームの中で穏やかにゆったりと過ごしている。今年特に目標に掲げているのは「バランスよく食べて元気に過ごせる」ことであり、管理栄養士との連携を開始し、一日のエネルギー量を把握する為、月1回定期的に指導も受けており、食材にこだわった食事は評価も高い。利用者の栄養面アップに加え、職員もスキルアップを目指して栄養に関する勉強をしている。管理者は前向きで勉強熱心であり、これまでも良いと思う事はいろいろ取り組んできた。今後は益々楽しいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は入居者も職員も笑顔で過ごせるホームになるよう、職員で思いを話し合い決めたものである。現在は職員の目につく場所に掲示している。	利用者の人懐こい笑顔を見ても、理念が確実に生活の中に活かされている事が分かる。利用者同士や職員と利用者の会話も弾んで楽しそうであり、「笑顔で寄り添い、笑って暮らそう」が実現されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、コロナ禍以前は地域のお祭りには子供会神輿が寄ってくれ、運営推進会議には町内会長、民生委員など参加頂き、地域の掃除等行事にも参加、地域のボランティアグループの訪問もあった。しかし、現在は感染拡大予防の為、中止。電話等で連絡している。	地域交流に力をいれてきたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、様々な交流が思うように出来ていない。そんな中でもベルマーク集めを継続したり、玉島交流センターで作品展を開催し、多くの地域住民に鑑賞してもらい、見学に行った利用者も交流を持った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校あてにベルマーク集めに協力。今年も4回目となる作品展を地域の交流センターにて開催した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム周辺の地理、地域行事への参加、非常災害時の協力体制に役立っている。現在は、感染予防の為中止しているが、2カ月に1回は連絡を入れ、状況報告等行っている。	コロナ禍の為、参集での運営推進会議は久しく開催出来ていないが、毎回書面で運営推進会議構成員や家族に運営状況や活動報告をお知らせしている。	書面での運営推進会議の記録を見る限り、議題の中にヒヤリ・ハット、事故報告例が見当たらないので、ホームの実情を理解してもらう為にも、議題に入れる事を検討してみたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	通常は運営推進会議には市の担当者の参加がある。生活保護受給者の相談事も遠慮なく相談できている。介護保険の担当者には変更時等相談・指導してもらっており、良い関係が築けている。	日頃から何かあれば電話等で市の担当者に相談し、助言や指導をもらっている。事故報告書等は倉敷市の電子申請サービスを利用し、指導監査課に報告。その他、市主催のコロナ関連の勉強会はオンライン研修が多かったが、参加して行政と連携を取り合った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の安全面に配慮し、センサーマット、玄関センサーを使用する等自然な暮らしを支えるようにしている。身体拘束防止委員会を定期的に開催している。	身体拘束・虐待防止委員会を定期的に開催し、該当者がいない事をその都度確認している。新規入所の人の場合も比較的軽度で歩ける人が多いが、例え帰宅願望があっても一人ひとりに寄り添う事で落ち着いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止」の研修には参加するよう努めている。研修参加後にはスタッフ会議で報告し情報共有している。ホーム内でも研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見人制度を利用している入居者様が複数あり、後見人の方に報告・相談を行っている。また、生活保護受給者の制度使用についても市の担当者と検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には施設の方針、重度化した際の対応、利用料等十分説明を行い、同意を得るようにしている。その際、不安や疑問はないか確認、随時対応する旨説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には面会時に近況報告し、積極的に意見交換を行なっている。通常は年2回家族会を開催し、参加できなかった家族には記録を送付していた。また、毎月家族へ担当者のコメントを送付している。その際、行事や日頃の会話、エピソードも添えるようにしている。	コロナ禍の為、例年行っていた家族会も中止し、面会制限を設けた分、「とんがりぼうし新聞」の号数を増やしたり、担当者からの手紙で状況報告をより細やかに行った。また、面会時には積極的に家族と話し合うように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の気付き、工夫できること等を職員が気兼ねなく提案できる雰囲気づくりをしている。申し送りノートの活用やスタッフ会議にて意見交換、急な対応についても周知できるようにしている。スタッフ会議へは社長も参加している。	毎月のスタッフ会議で伝達事項を共有したり、課題に対して意見交換をし、参加出来なかった職員には記録を共有してもらっている。職員の意見や提案は社長にも届き、運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社長がスタッフ会議に参加し実情を把握、相談にも応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年からリモートの研修にも参加している。現在は外部から講師を招いたり、外部研修への参加も難しくなっている。資格取得は積極的に勤めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護保険事業者連絡会に加入し、研修に積極的に参加している。「玉島の多職種連携の場」にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で家族と本人に会い、生活歴、生活状況等を把握し、要望、疑問点等話し合う機会をつくっている。入所後も相談し易い環境をつくる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の悩みや不安に寄り添い、施設としてどのような対応ができるか話し合っておく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームで出来る事、出来ない事を説明している。希望者にはホームの見学やお試しも行っている。相談の内容により、他のサービス利用を提案することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人が出来ること、好きなこと、得意なことを探し、一緒に作業したり、任せている。洗濯たたみ、ぬりえ、壁絵づくり等。本人の自信や充実感に繋がるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告し情報共有している。また、家族会、運営推進会議への参加、入居者様の検査等での受診付き添いや行事等への参加等可能な方にはお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人、知人との面会、外出支援も行っている。電話、手紙等の連絡を取り持ったり、つながりが途切れないよう努めている。	コロナ禍が続き、家族の面会は中止しているが、強く希望する場合は玄関で換気しながら時間を制限して面会をしてもらっている。以前から顔見知りの親戚同士の利用者もいる等、それぞれのこれまでの馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に相談、話を聞く時間をつくったり、利用者同士の関係が円滑になるようレクレーションや作業を通じ働きかけをしている。反対に相性の合わない際は席替え等の工夫も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた場合でも、生活環境、支援の内容、注意点等情報提供し連携をとる。また、家族の悩みや不安に寄り添い、相談にのることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から相談できる時間を設け、本人の希望から困りごと、テレビや家族の話等なんでも気軽に話が出来る機会をつくるよう努めている。また、入居者同士が上手くコミュニケーションがとれない場面では居室に誘い話を聴く等の対応をすることもある。	殆どの方が自分で意思表示出来るので、日常的な会話の中で思いや意向を引き出すようにしており、言い易い雰囲気作りにも努めている。また、その人なりの生活スタイルを尊重し、出来る限り意向に添えるように自由に過ごしてもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、生活環境は本人、家族から聞き取りしている。可能なら自宅訪問する。利用していたサービスについては前事業所、病院等に情報提供依頼する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの生活リズムを把握、尊重し、無理なく、その人らしく過ごせるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人には日常の関わりのなかで、家族には面会時や電話連絡時等に要望や意見を聞いている。医師には往診時に注意事項等確認している。職員にも申し送りノートや会議で意見を出し合い現状に即した計画を立てている。	各利用者の基本情報一覧が見事にまとめてあり、心身の状態が一目で分かる。ケアプランは本人・家族の思いや意向が十分に活かされるように職員間で話し合いながら作成しており、その人らしく笑顔で生活出来るようなサービス内容に重点を置いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は、本人の表情や言葉を重視し、生活の様子を記録し、申し送りノートを活用する等、情報を共有、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況に応じ、買い物、ドライブ、散歩、必要な支援は柔軟に個別対応している。一人ひとりの満足度を高められるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入、通常は運営推進会議開催しており、近所で行なわれる行事の情報や災害時に協力頂ける可能性が広がった。運営推進会議は中止しているが、電話にて状況報告や近隣の情報をきくことができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望をきき、かかりつけ医を決めている。内科以外の受診や通院は無理のない範囲で家族に協力して頂いている。また近くの訪問看護ステーションと医療連携を結んでおり、より細かな健康チェックが出来るようになった。訪問歯科とも連携しており、受診・相談・指導してもらえる。	ホームの協力医療機関は玉島協同病院であり、9名の利用者がそれぞれの主治医に診てもらっており、定期的な往診もある。精神科等の他科受診が必要な人は原則家族にお願いし、難しい場合は職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入居者の状態観察を常に心がけ、協力医療機関に報告、相談し適切に、受診、看護を受けることができている。また、現在は近くの訪問看護ステーションと医療連携体制を整え、24時間対応できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはフェースシート、ADL等情報提供し、入院中は病院の相談員等と定期的に連絡をとり、家族とも相談しながら退院支援している。また、退院前にも病院職員と情報交換しスムーズにホームの生活に戻るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から重度化した場合のことや、終末期のことを話題にし、当ホームで出来ること、出来ないことを説明している。重度化した際には本人・家族の意向を随時確認しながら担当医等と連携し支援している。	ここ数年は医療が必要となって入院後、病院で亡くなる人が続き半数近く利用者も入れ替わった。ホームでの看取りはマンパワーとの関係もあるが、家族と相談しながら出来る限り希望に添いたいと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほとんどの職員が普通救命講習Ⅰの講習を受講。定期的に応急処置や初期対応の訓練をしている。AED設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回避難訓練を行っている。運営推進会議、家族会でも話し合い、協力体制を築いている。又、中学校区の防災を考える会に参加し情報収集を行っている。非常時の備蓄、「緊急告知FMラジオ」設置している。	玄関には地域住民からの要望に応じてAEDを装置しており、救命救急資格保持者の職員もいる。また、定期的に職員研修もしている。年2回火災、地震等を想定した避難訓練を行い、避難経路や誘導の仕方などを再確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活のなかで築いてきた習慣やこだわりを尊重し、対応している。入居時の「個人情報の使用に係る承諾書」を頂き、作品展等入居時想定外だった行事等あった場合はその都度、確認している。トイレは各居室にありプライバシーへの配慮行っている。	人としての尊厳を大切に守ることはもちろんのこと、かける言葉にも注意を払い、行動の抑止やプライドを傷つけないように気をつけている。各居室にトイレがあるので、排泄の失敗時や更衣にはプライバシーが保たれ、羞恥心にも配慮出来ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人や家族等から聞き取った生活履歴を参考に普段の会話等から複数の選択肢を提案し自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床にはじまり就寝までその方の暮らしのペースを大切に、個人のリズムに合わせた支援ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の更衣の際の洋服選び、整髪、化粧品等習慣にあった支援をしている。定期的な訪問美容師も利用できる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事を栄養(免疫)と楽しみの面から重視。誕生日は食べたい物を、行事や外出時には外食を楽しんでいる。野菜の大半は減農、有機栽培に取り組んでいる業者から購入。食事は出来るだけ自力で出来るよう、必要に応じ軽い食器使用など工夫している。	今年から管理栄養士との連携を始め、定期的に指導をもらっており、バランスの良い食事との評価もいただいている。コロナ禍前は会話の多い楽しい食事風景だったが近年は会話も控え目になっている。殆どの人が自力摂取出来るので今日の昼食も皆さん完食だった。	管理栄養士の指導もあり、利用者の栄養面アップに加え、職員も勉強してレベルアップを目指しているとの事。バランスの良い食事は元気の源。今後益々「医食同源」となるよう期待している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量、毎食の食事量を一覧表を使いチェックしている。検食簿を使い食材やメニューが偏らないように工夫している。普段の会話や残食より、各人の好みを把握するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じ、週に1度訪問歯科を利用し、口腔状態の把握、口腔ケアの方法等を指導受けている。日に3回、自立の方は声かけ、出来ない方は出来ない部分を介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し定期的な声かけにより、トイレで排泄できるよう支援している。立位が不可の利用者は本人希望時以外は安楽の為、ベッド上でパット交換している。リハビリパンツ、パットは本人の排泄状況をみながら選んでいる。	排泄が自立で布パンツの人もいるが、大半はリハビリパンツ着用であり、職員間で検討しながらその人に適したパットをいろいろ試している。各居室にトイレはあるが夜間用にポータブルトイレを置いている例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルト、牛乳を使った飲み物を、週に2回程度、は乳酸菌飲料を提供。食事は野菜を多く摂れるよう努めている。毎日のビデオ体操とスクワット等の下肢訓練を行ない、散歩も出来るだけ行っている。頑固な便秘の方は朝一にコップ一杯の水を飲むよう声をかけたり、必要に応じ医師とも相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に考慮しつつ、お湯の温度や湯船に浸かる時間など出来るだけ希望に沿うようにしている。拒否の強い時には清拭や足浴、翌日に変更したりしている。安全確保の為、手すりの増設、滑り止めマット使用等行っている。	職員とマンツーマンで入るお風呂は会話も弾みリラックスタイム。冬至の日はゆず湯をして喜ばれた。殆どの人は湯船に入りゆっくり入浴を楽しんでいるが、入浴拒否のある人には職員が言葉を工夫しながら根気よく声かけしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の体調や生活リズムに合わせて休息してもらっている。午睡したり、日中活動も個人の体調を配慮している。夜間眠れない人は日中できるだけレクや作業に誘い、夜ぐっすり眠れるよう支援する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人の薬ケースに保管し、いつでも確認出来るようにしている。変更があった場合は業務日誌、生活記録表に記載し、飲み方、いつから変更になったのか等わかるようにしている。変更時など薬剤師に副作用等の問い合わせを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者1人ひとりの好きな事、得意な事、笑顔になれる事、を一緒に探し、達成感、喜びを感じて頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的な買い物、定期的な郵便局、受診等家族の協力も得ながら支援している。通常は年5回程度、初詣・お雛見学・お花見・ゲームセンター・買い物等行っている。作品展では都合のつく家族と一緒にみてまわる入居者もいる。個人的な外出時は車への乗降介助等できる範囲で支援している。	初詣、紅葉ドライブ、春は庭の桜の木の下で茶話会をする等、四季折々に非日常を楽しんでもらっている。天気の良い日は周辺をドライブしたり、庭で日光浴や外気浴をして気分転換をしている。外出支援を兼ねた作品展見学は「かわいいなあ、きれいにしとるねえ」等と、とても喜ばれたそうだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族と相談し、お小遣い程度のお金を自分で持って、買い物の際自分で支払われる方もある。他の方は立替金で買い物し、本人が満足できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等もへの電話や伝言(難聴の為電話が困難な場合など)はいつでもできる。手紙、ハガキの記入、投函等希望時には行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホールに季節の飾りや花、植物等を飾り、居心地のよい空間を入居者と一緒に作っている。日にちがわかるよう手作りの日めくりや、大きな1ヶ月分のカレンダーを設置している。又、季節にあった壁画(塗絵・ちぎり絵・クラフト等)や個人作品を作成し飾っている。	クリスマスが近い事もあり、リビング内はクリスマスの飾り付けで華やかな雰囲気。塗り絵に熱中している人達もいれば、仲良し同士の会話が玄関まで聞こえてくる。感染防止策としてテーブルの配置を変えたり、換気や掃除の回数を増やして清潔な空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれお気に入り、落ち着ける場所があり、自由に過ごせるようにしている。自分の席が居室より落ち着く人、ソファーや廊下の椅子で日向ぼっこする人など、くつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持参した家具を設置している方、仏壇、位牌を置く方、家族の描いた絵や写真等本人と家族の好きなものになっている。また、伝い歩きがし易いよう動線を考え安全面にも配慮している。	9つある居室はどこともその人らしい個性が溢れ、趣味や嗜好がよく表れている。自分が過ごしやすいように整理整頓やレイアウトをする人もいて、家庭の延長線のような居室が多い。安全面にも配慮し家具の配置等の様々な工夫がしてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には名札、花飾り(個別)をつけ、自分の部屋がわかる工夫をしている。廊下には手すり、玄関には靴が履き易いよう椅子を設置している。必要に応じ、居室内トイレなどに案内札を付けている。		